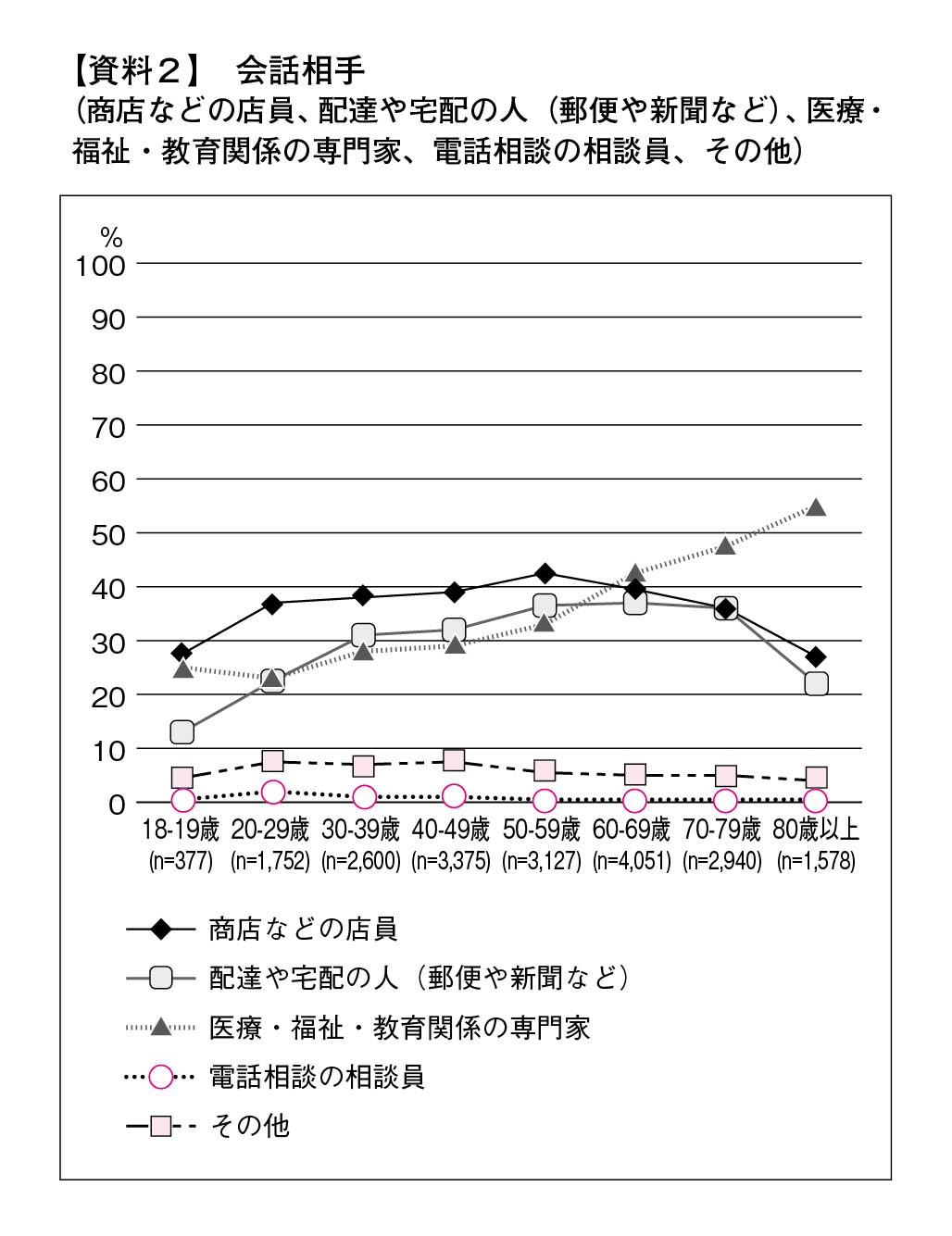
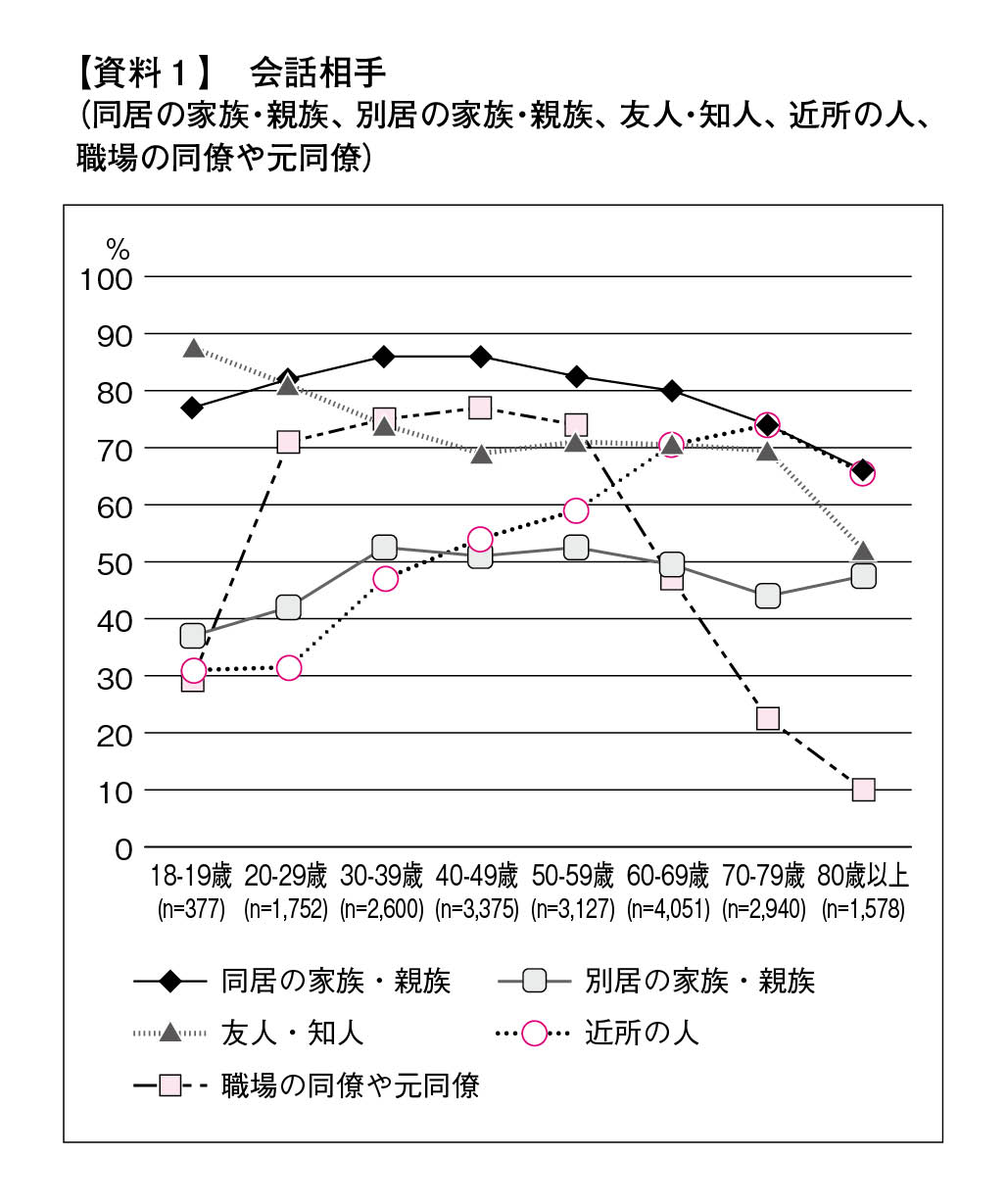
**12 湯浅　誠『反貧困―「すべり台社会」からの脱出』**

　私自身は、ホームレス状態にある人たちや生活困窮状態にある人たちの相談を受け、一緒に活動する経験の中で、ンの「潜在能力」に相当する概念を  
①〝溜め〟という言葉で語ってきた。〝溜め〟とは溜池の「溜め」である。大きな溜池を持っている地域は、多少雨が少なくても慌てることがない。その水は田畑を潤し、作物を育てることができる。逆に②溜池が小さければ、少々日照りが続くだけで田畑が干上がり、深刻なダメージを受ける。このように、〝溜め〟は外界からの衝撃を吸収してくれるクッション（緩衝材）の役割を果たすとともに、そこからエネルギーをみ出す諸力の源泉となる。

　〝溜め〟の機能はさまざまなものに備わっている。たとえば、お金だ。十分なお金（貯金）を持っている人は、たとえ失業しても、その日から食べるに困ることはない。当面の間そのお金を使って生活できるし、同時に求職活動費用ともなる。落ち着いて、積極的に次の仕事を探すことができる。このとき貯金は〝溜め〟の機能を持っている、と言える。

　しかし、わざわざ抽象的な概念を使うのは、それが金銭に限定されないからだ。有形・無形のさまざまなものが〝溜め〟の機能を有している。頼れる家族・親族・友人がいるというのは、③人間関係の〝溜め〟である。また、自分に自信がある、何かをできると思える、自分を大切にできるというのは、精神的な〝溜め〟である。



語　注

セン＝アマルティア・セン。インドの経済学者。アジア初のノーベル経済学賞受賞。

問1　傍線部①「〝溜め〟」とあるが、筆者の言う〝溜め〟を持っているとはいえない人を、次の具体例から一つ選べ。（10点）

ア　貯金は潤沢にあるが、精神的なゆとりがまったくない人。

イ　状況を打破しようと焦っているが、相談相手のいない人。

ウ　資産は保有していないが、自分の将来を楽観視している人。

エ　話し相手はたくさんいるが、親友と呼べる友人はいない人。

〔　　　〕

問2　傍線部②「溜池が小さければ、少々日照りが続くだけで田畑が干上がり、深刻なダメージを受ける」とあるが、これを説明した次の文章の空欄Ａ～Ｄに入る言葉を、本文からそれぞれ指定の字数で抜き出せ。（3点×4）

→外からの衝撃を和らげる〔Ａ（五字）〕になる〔Ｂ（二字）〕や〔Ｃ（四字）〕、精神力などを持っていないと、〔Ｄ（二字）〕状態に陥りやすいということ。

Ａ＝〔　　　　　　　　　　〕

Ｂ＝〔　　　　　〕

Ｃ＝〔　　　　　　　　　　〕

Ｄ＝〔　　　　　〕

問3　傍線部③「人間関係の〝溜め〟」について考えたＡさんは、図書館で【資料1・2】を見つけた。これに関して、あとの問い⑴・⑵に答えよ。

⑴「人間関係の〝溜め〟」に関して、【資料１】から読み取れるのはどのようなことか。最も適当なものを次から一つ選べ。（10点）

ア　二〇歳までは家族との会話が多いが、それ以降は徐々に友人を会話の相手とする割合が増えていく。

イ　年齢が上がるにつれて、近所の人を会話の相手とする人の割合は右肩上がりで増えている。

ウ　別居親族の割合は年齢による大差はないが、他の相手の減少により徐々に順位は上がる。

エ　八〇歳以上の人は、別居親族が微増するものの、それ以外はすべての項目で減少している。

〔　　　〕

⑵Ａさんは、高齢者における「人間関係の〝溜め〟」とは、頼れる会話相手だと考えた。【資料１・２】より、「八〇歳以上」の「会話相手」についてどのようなことがいえるか。「増加」・「役割」という言葉を用いて、五十字以内で説明せよ。（18点）

〔

〕

【解答】

問1　イ

問2　Ａ＝クッション　Ｂ＝お金（金銭・貯金）

　　　Ｃ＝人間関係　　Ｄ＝困窮

問3　⑴　エ

⑵　八〇歳以上の人の会話の相手が減少する中で、割合が増加している医療・福祉関係者の役割は大きいといえる。（50字）

（別解）全体的に会話の相手となる人は減っているが、医療関係者の割合は増加しており、医療機関の役割は重大だ。（49字）